

連載 登録医のご紹介

ベルランド総合病院広報誌「ベルフォーラム」

Bell Forum

地域と職員とともに栄えるチーム

医療最前線 進化する

放射線診断科

2017
Spring
No. 55

TOPICS

地域医療懇話会を開催しました
中保健センターとの協働開催 健康塾
大規模災害訓練
医療被ばく安全管理委員会 委員長就任
いづみ健老大学 市民公開講座にて講演
クリスマスコンサート

放射線診断科

放射線診断科とは内科や外科と違って、馴染みが薄く、何をしているのかご存じない方もいるかと思います。侵襲を与えることなく体内を画像化し、病気を診断する手法を画像診断と呼び、画像診断を専門に行う診療科を放射線診断科と呼びます。画像診断にはいくつかのモダリティがありますが、放射線科医が中心となって行う画像診断としてCT（コンピュータ断層画像）、MRI（磁気共鳴画像）が主なものとしてあります。また、血管造影などの画像診断のテクニックを使って直接、治療に役立てようとする分野を Interventional radiology (IVR) と呼び、これについても簡単に説明します。



CT (Computed Tomography : コンピュータ断層画像)

CTとはX線を利用して身体の内部（断面）を画像化する検査です。近年のCTの進歩は目覚ましく、多数の検出器を搭載したマルチスライスCTが標準機となっています。ベルランド総合病院ではGE社製の64列X線CT装置が3台稼働しています。これらのCT装置は従来よりも短時間で細かな画像が撮影可能であり、検査時間短縮、画質向上、被ばく低減など幅広い臨床ニーズに対応しています。病気によってはヨード造影剤を静脈から注射し

ながらCTを撮影することによって、より詳細な質的情報を得ることができます。また、コンピュータの進歩により、その機能を生かして立体表示（CT angiography, volume rendering, surface rendering, virtual endoscopy）や多断面再構成（multiplanar reconstruction ; MPR）といった、視覚的に理解が容易な三次元画像も簡単に作成可能であり、外科手術のナビゲーション用としても広く使われるようになってきています。

MRI (Magnetic resonance imaging : 磁気共鳴画像)

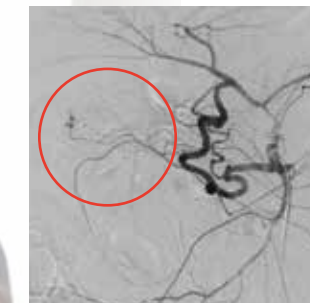
MRIは磁気を用いて体内の状態を画像化する装置であり、CTとはまた異なった情報を与えてくれます。当院では現在3台の高磁場MRI装置が稼働しており、うち2台は3テスラの超高磁場装置で、撮影の高速化と高画質の画像を得られるようになりました。MRI画像は組織分解能が高いことが特徴のひとつであり、腫瘍など病変部の性状を詳しく分析することが可能です。また、中枢神経領域では

脳梗塞の早期診断に欠かせない診断装置であり、造影剤を用いることなく脳血管を明瞭に画像化することで、造影剤アレルギーのある方でも非侵襲的に動脈瘤や血管の狭窄などの評価をすることが可能です。CTに比べて検査時間が長くまた検査中に大きな音がすることが欠点ですが、CTのようにX線を使いませんので放射線被曝はありません。

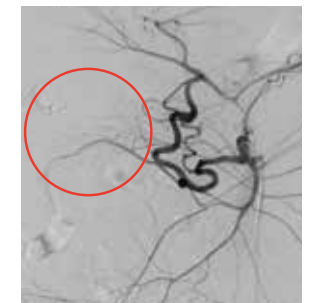
IVR (Interventional radiology : インターベンショナルラジオロジー)

IVRとは、CTや血管造影装置など放射線診断装置を用いて行う治療のことです。主に局所麻酔下に針やカテーテルを用いて行い、外科的手術に比べ低侵襲であることが利点で、患者さんの苦痛軽減、入院期間の短縮や費用の削減効果などもあります。

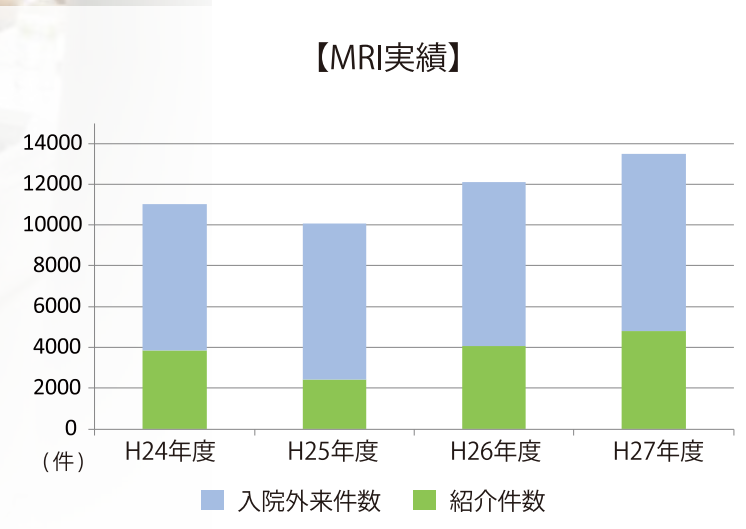
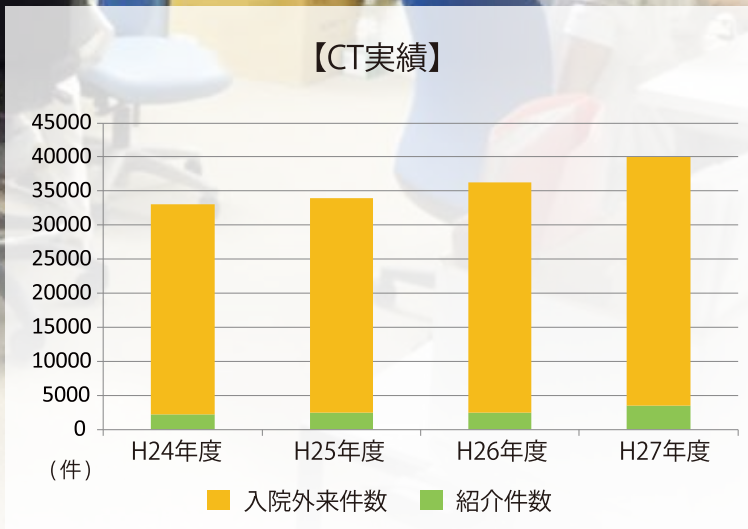
当科では心臓と脳を除いた領域のIVRを行っています。実際行っている治療内容としては、肝細胞癌に対する肝動脈塞栓療法・肝動脈リザーバー留置術、動脈瘤に対する塞栓術、消化管出血・子宮出血・喀血・外傷など様々な出血に対する塞栓術、腎血管筋脂肪腫・腎動静脈奇形に対する腎動脈塞栓術、胃静脈瘤に対する硬化療法など多岐にわたります。



大腸憩室出血塞栓前



大腸憩室出血塞栓後



放射線診断科では、日本放射線学会認定の放射線診断専門医および放射線科専門医が、各患者さんの臨床情報を踏まえて得られた画像を読影・解析し、画像診断報告書を各臨床科に提供しています。また、院外医療機関からのCT、MRI検査の画像診断依頼にも積極的に対応しており、昨年度の共同利用率はCT検査6.3%、MRI検査35.6%と非常に高く、検査終了後も迅速かつ正確な画像診断報告書を作成しています。

今後も地域間、施設間での格差がない画像診断が可能となるように、地域の皆様のお役にたてればと考えております。

【略歴】

平成8年	大阪市立大学医学部 卒業 大阪市立大学医学部附属病院 臨床研修医
平成9年	日本赤十字医療センター 放射線科
平成10年	大阪市立大学大学院医学研究科 入学
平成14年	同上 卒業
平成14年	大阪市立大学 放射線科
平成14年	ベルランド総合病院 中央放射線科
平成23年	ベルランド総合病院 副部長
平成28年	ベルランド総合病院 部長

放射線診断科
いそた まさゆき
部長 磯田 正之
日本医学放射線学会：診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医



平成 28 年 11 月 12 日

第20回 ベルランド地域医療懇話会

11月12日(土)に第20回地域医療懇話会をベルランド総合病院地下1階A I F ホールにて開催し、当日は106名の方にご参加いただきました。

本懇話会は、地域医療支援病院として年1回開催しており、地域の登録医の先生や医療従事者の皆さま方との交流が目的です。

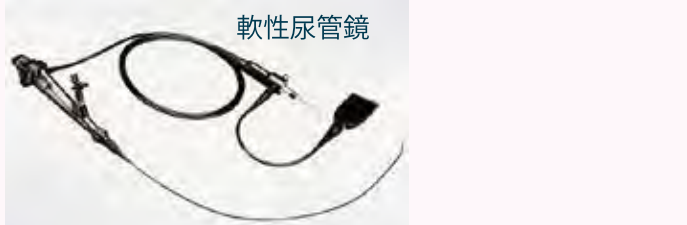
今年は新たに副院長に就任しました、泌尿器科 大町 哲史、消化器内科 安 辰一、循環器内科 片岡 亨と、部長に就任しました放射線診断科 磯田 正之が、当院の取り組みについてご報告させていただきました。

当院の尿路結石に対する治療戦略

副院長・泌尿器科 部長 大町 哲史

尿路結石治療は、近年の技術革新に伴い飛躍的な進歩を遂げています。例えば、1980年代にESWL(体外衝撃波結石破碎術)が導入される以前は、腎切石や尿管切石など開腹して侵襲的な治療を行ってまいりました。しかし、ESWL時代に入ると、衝撃波による破碎が可能になり開腹手術はほとんどなくなりました。ところが、ESWLでは対処しきれない結石が少なからず存在し、また、繰り返しESWLを行うことによる腎臓などの臓器への障害が指摘されるようになりました。さらに、硬性および軟性尿管鏡の改良とレーザー破碎機の開発によって、その治療法は新たな時代の幕開けになったと言えます。それは、軟性内視鏡によって、腎盂はもとより下腎杯まで観察や破碎さえできる事が可能になり、しかも小型化されたバスケット鉗子によって、破砕片を積極的に抽石するという方法が主流になっているからです。当科ではこういった経尿道的(腎)尿管結石破碎術が他院からの紹介も増え、今年は100件を超えるほど増加しており、今後も地域治療のために尽くしたいと考えています。

おおまち てつじ
副院長・泌尿器科 部長 大町 哲史



経尿道的結石破碎術は、軟性(もしくは硬性)尿管鏡を麻酔をかけた状態で、外尿道口より膀胱、尿管、腎まで挿入し、結石を確認しながら、レーザーを用いて破碎します。破碎された結石はバスケットカテーテルで回収するため、安全かつ確実に破碎から抽出が可能です。

C型肝炎治療の進歩

副院長・消化器内科 部長 安 辰一

あん たついち

我が国の肝臓癌の最大の原因であるC型肝炎の治療が大きく変わりつつあります。

HCVは1989年に発見され、HCVに感染すれば、多くは慢性化し炎症の持続によって肝硬変や肝細胞癌に進展していきます。その長期予後を改善するために、従来はインターフェロンを中心とした治療を行っていましたが、その効果は限定的でかつその副作用のため治療を受けることができない患者も多くいました。

しかしながら、2014年より、導入された直接HCVに作用する抗ウイルス薬(DAAs)の登場により、短期間の治療(12週間)で、治療成績は格段に向上し(ウイルス消失率:95%以上)、また副作用の少なさより多くの患者で治療が可能(非代償性肝硬変にも適応拡大)になりました。現在当院においては、約200人弱の患者でDAA治療を行い、治療を完遂できた患者においては、1例以外はすべてウイルスが消失しております。右の表には、現在治療を行っている代表的な治療法をお示しします。

また、一方でウイルス消失により、肝癌発症のリスクは著明に低下するものの、その後少ないながらも、肝癌の発症も見られます。そのためには、ウイルス消失後のフォローも非常に大切です。ぜひこの機会に多くのC型肝炎の治療を行いたいと考えていますので、宜しくお願いします。



現在使用可能なDAA治療

RBV	NS3/4A	NS5A	NS5B	
<input type="checkbox"/>	Asunaprevir	Daclatasvir	<input type="checkbox"/>	BMS
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Ledipasvir	Sofosbvir	Gilead
RBV	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Sofosbvir	Gilead※1
<input type="checkbox"/>	Paritaprevir	Ombitasvir	<input type="checkbox"/>	Abbvie※2
<input type="checkbox"/>	Gurazoprevir	Elpasvir	<input type="checkbox"/>	MSD

※1:2型, ※2:1,2型, 他は全て1型

当院の循環器疾患 up to date

副院長・循環器内科 部長 片岡 亨

かたおか とおる

現在、当心臓病センターでは、循環器内科15名、心臓血管外科4名が、急性期から慢性期の心血管病に対し、24時間体制のハートコールを運用しながら診療に当たっております。不整脈疾患に関しては、最もカテーテルアブレーションの頻度が多い心房細動に対して、肺静脈を冷却バルーンにて隔離するクライオアブレーションを昨年5月より開始しております。このデバイスにより手技時間が3時間40分から1時間以上短縮ただけでなく、心タンポナーデ等の合併症も低下出来るメリットがあります。

また、心臓血管外科におけるステントグラフト治療は2014年開始以来100例を超え、胸腹部の大動脈だけでなく急性大動脈解離に対しても治療可能であります。昨年には手術室にハイブリッド(手術+血管造影)治療室が完成し、TAVR(経カテーテル大動脈弁置換術)などの治療開始を準備しております。

登録医の先生方との良好な病診連携のおかげで、昨年は総カテーテル件数1,930件、総手術件数254件でした。今後とも更なる連携を宜しくお願い致します。



クライオアブレーション



バルーンを拡張して肺静脈開口部に押し当て、完全に閉塞して左房と静脈の間の血液の流れを止めます

登録医のご紹介

なかやま ゆうじ
中山内科医院 中山 祐史 先生

一般内科、小児科、消化器内科

Q. 標榜科は何ですか？

一般内科、小児科、消化器内科。
内科の専門領域は消化器内科です。大阪市大病院に勤務していたころは肝臓を専門にしていました。現在、自院にて一般診療のほかに上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査なども行っています。

Q. 医師を目指した動機は？

父が医師ということもあり、子どものころから医療の世界が身近な存在でした。将来人々の役に立つ仕事をしたいと思った時、自然と医師を志すようになっていました。

Q. 診察の際に心がけている事は？

患者様に安心してなんでも相談して頂けるように、丁寧な対応と言葉づかい、分かりやすい説明を心がけています。

Q. 地域医療について

もともと地元の患者様が中心ということもあり、ご依頼を受けた際には往診なども行ってまいりました。在宅支援診療所の認定も受け、かかりつけ患者様を対象に在宅診療にも携わっております。

Q. ベルランド総合病院への希望・要望

いつも迅速・丁寧な対応を取っていただきありがとうございます。緊急を要する患者様でもすぐに対応して頂けるので大変ありがたい存在です。今後ともよろしくお願いいたします。



星座：おひつじ座 血液型：A型
趣味：スポーツ観戦（野球、スキー）、旅行、写真撮影など多趣味です
住所：大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁21-7
TEL：072-257-0380

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	●	●	●	●	●	●
17:30～19:30	●	●	●	/	●	/

休診日：日・祝

Q. 最後に一言お願いいたします

先代の父がこの地に開業してから40年になろうとしています。これまで地域密着で日々の診療を行って参りました。これからも引き続き地域の皆様に信頼されるよう診療に携わっていきたく思います。

新規登録医 登録件数 388件 H28.10.15 現在

東区	松本内科クリニック まつもと だいすけ 松本 大輔 先生
----	------------------------------------

医療従事者向け セミナー

2月18日(土)	南大阪血管疾患セミナー 堺市産業振興センター セミナー室2
2月23日(木)	泉北耳鼻咽喉科セミナー2017 ベルランド総合病院 AIF ホール
2月25日(土)	第5回泉北骨・関節セミナー ベルランド総合病院 AIF ホール
3月11日(土)	第4回泉北地区認知症カンファランス ベルランド総合病院 AIF ホール

Topics

2016年10月22日 第25回ベルランド健康塾『子どもの感染症と発達障害』を開催しました

講師：ベルランド総合病院
小児科 部長 沖永 剛志 先生



2016年12月3日 第13回保険薬局研究会を開催しました

『医薬品服用中の自動車運転等に関する患者への説明』
ベルランド総合病院 薬剤部 科長 星 育子
『精神疾患と自動車運転』
ベルランド総合病院 神経科 部長 宮城 徹朗



グループワークの様子

ベルランド総合病院は
大阪府がん診療拠点病院に
指定されています

中保健センターとの協働開催による 健康塾

昨年度より、堺市長の諮問に応じ、各区が独自の活動を推進する『中区区民評議会』が発足しました。ベルランド総合病院の院長も、公益活動者の立場から評議員として参画しています。

評議会の大きな柱に「誰もがすこやかで、生き生きと暮らせるまちの実現に必要な、市民の健康づくりに資する施策のあり方について」の諮問事項があり、疾病予防や健康増進のための啓発活動を推進していくことが求められています。

一方で、開催日時に関して配慮してほしいとの要望があり、子育てをされている方や勤めておられる方々も参

乳腺センター センター長
阿部 元



平成28年10月22日開催
ピンクリボン（乳がん予防）ウォーク 講演
中区役所4階大会議室にて

加しやすい曜日や時間に開催することが決まりました。
上記趣旨のもと、中保健センター主催の健康塾において当院医師を派遣することで行政との協力体制が構築されることは、理想的な姿であると実感しております。
第2回目となる今回は、当院の阿部乳腺センター長が乳がんについてお話しをさせていただきました。



一般向け セミナー

ベルランド総合病院 第7回市民公開講座



2017.2.18 土 14:00～16:00 (開場 13:30)

堺市立東文化会館 3F フラットホール

参加
無料



寝たきり NO!

ベルランド総合病院 副院長 倉都 滋之



折れない身体をつくるコツ

ベルランド総合病院 骨粗鬆症マネージャー
運動器認定理学療法士 田中 暢一



骨を強くするために、何をどう食べるか

ベルランド総合病院 栄養管理室 室長 正木 美由紀

防 大規模災害対策訓練



昨年に引き続き、今年度も来たる災害に備え、「エマルゴ机上シミュレーション」・「大規模災害訓練」を開催致しました。昨年4月に発生した熊本大地震など、本当にいつどこで起こるかわからない状況の中、更に災害に対する危機感を感じるようになりました。そんな中、災害対策委員会が中心となり、地域密着を掲げる本院として、災害時に最大限の役割を發揮するため、訓練だけでなく、講演会や勉強会など、継続した教育にも力を入れています。これからは災害時に、最善の医療を提供できるよう、院長を筆頭に災害対策に取り組んでいきます。

エマルゴ机上シミュレーション



今年度も、机上シミュレーションを通じて、災害時にどう動くべきかという考え方を学ぶため、職種を問わず院内スタッフを対象に、エマルゴ訓練を開催しました。新校舎となったベルランド看護助産専門学校の講堂を貸し切り、昨年度同様、経過する時間の中で、各部署がどのように連携し、傷病者に対して最善の医療を提供するかということ学びました。初めての経験で戸惑うスタッフもたくさんいましたが、取り組む姿勢は真剣で、まさに災害に対する意識の向上に繋がっているなと感じました。実際の災害訓練を行う前に実施することで、各個人の課題がより明確となり、大規模災害訓練への取り組む姿勢も、更に真剣さが増したのではと感じました。これからは継続した教育の一環として、エマルゴ机上シミュレーションを開催していきたいと考えています。

大規模災害訓練

今年度の訓練は、昨年度と思考を変え、災害時に入院患者さんの安全をいかに守り、避難させるかという視点で訓練を実施致しました。今回も約200人のスタッフが参加し、管理棟3・4Fを貸し切った大がかりな仮想病棟を3つ設定しました。ベルランド看護助産専門学校の看護学生が、模擬患者家族50名に扮して、災害発生直後の不安で動揺する患者家族役に成りきって頂き、とても臨場感ある訓練に繋げることができました。実際に新たなストレッチャーや布担架を用いて、患者さんを避難させたり、無線を活用して各部門との連絡調整を行ったり、まさに実際の状況さながらの訓練が実施できました。

400名以上の患者さんの命を預かる病院として、全ての患者さんを助けるため、どのように各部門が連携しなければならないのか、またそのためにはどのような知識と技術を備えなければならないのかなどを、この訓練を通じて学べたと考えます。来たる災害に備え、まだまだ準備・教育することはたくさんありますが、これからは継続し、地域住民が安心できる病院になるべく、使命感を持って教育に関わって参ります。

集中治療室（救急部門） 友田新二



技

医療被ばく安全管理委員会

委員長 就任



中央放射線科 技師長

すずき よしあき
鈴木 賢昭

当院は、2006年に全国に先駆けて公益社団法人日本診療放射線技師会の「医療被ばく低減施設認定」を取得し（大阪府内施設で1番目）、患者と職員の被ばく低減に注力してきました。

具体的には、放射線診療を実施する際の国際ルールとして、他に代替手段が無いこと（放射線利用の正当化）および、放射線量の最適化が行われていることが求められています。後者の最適化については、検査に用いる放射線量が高いと画質は良くなる方向に向かいますが、一定量以上は過剰線量であり無駄な被ばくとなります。一方、低く過ぎると画質が低下するため、診断・治療の目的が達成できず、こちらも無駄な被ばくになってしまいます。したがって、放射線量の最適化（低減）は最高画質を求めるのではなく、検査・治療の目的を達成するために必要な最適画質を求めることと言えます。

しかしながら、昨今の放射線診療装置は急速に進歩しており、物理特性や画像処理法など総合的な知識の習得が容易ではありません。そこで、医療被ばく低減の施設認定要件として、放射線機器管理士（放射線機器の専門知識）および、放射線管理士（人体への影響や法的管理）の在籍が明記されています（当院にはそれぞれ6名在籍）。

一方、「最新の国内実態調査結果に基づく診断参考レベルの設定」(Diagnostic Reference Level:DRLs)の策定では、私がIVR班班長を担当し、2015年6月には13の関連学会と団体で共同作成した本邦初のJapan DRLsを世界に公開しました。マスコミを初め国際放射線学会、世界医学物理協会、国連原子力委員会などからも注目されており、本邦の放射線診療に大きな影響を与えるものと考えます。

こうした活動が認められ、この度、日本診療放射線技師会の医療被ばく安全管理委員会委員長を拝命しました。医療被ばくに関する情報発信源としての使命を、しっかりと果たしていきたいと考えています。

臨床現場において、ベルランド総合病院の中央放射線センターは、これからは木田センター長のもとチーム一丸となって地域医療の拠点として安心安全な放射線診療を提供してまいります。

活動

- 2006年 (公社)大阪府放射線技師会 学術委員
- 2007年 (公社)日本診療放射線技師会 医療被ばく安全管理委員
- 2009年 (公社)日本診療放射線技師会 医療被ばく低減施設認定チーフサーベイヤー
- 2012年 (公社)大阪府放射線技師会 常務理事(学術担当)
- 2013年 内閣府(環境省)委託 住民被ばく相談員
- 2014年 医療被ばく研究情報ネットワーク(J-RIME) 診断参考レベル(DRLs) 作成ワーキンググループ IVR班長 (主事 近畿大学 細野教授)



いづみ健康大学「市民公開講座」

平成28年度いづみ健老大学主催 市民公開講座が開催され、当院から講師として医師、理学療法士が講演いたしました。内容を一部ご紹介させていただきます。

主催：NPO法人いづみ健老大学
後援：堺市
平成28年11月22日



ベルランド総合病院
理学療法室
骨粗鬆症マネージャー
田中 暢一

「知っておきたい、骨粗鬆症のこと」

「あなたは骨粗鬆症ですか？」と聞かれて、正確に答えることができる人はどのくらいおられるでしょうか。けっして多くありません。「骨がスカスカになって折れやすい状態」とは知っていても、その原因や予防法について把握している人は少ないのが現状です。公開講座では、参加された方と一緒に簡単な自己チェックも行いながら、骨粗鬆症の

危険性を知っていただき、すぐにできる予防法についてお話をさせていただきました。骨粗鬆症による骨折は介護状態になりやすく、健康寿命を縮める恐れがあります。少しでも長く自立した生活を送るためにも、「骨まで愛してる」と言ってくれたあの時の言葉と一緒に、あなたの骨も大切にしていましましょう。



ベルランド総合病院
副院長
倉都 滋之

「あなたの腰や膝の痛みはどこから？」

“あなたの腰や膝の痛みはどこから？ ～いつまでも自分らしく歩くには～”というタイトルで、昨年に引き続きいづみ健老大学教養講座でお話をさせていただきました。平成25年度の国民生活基礎調査でも腰痛、膝関節痛はともに上位を占めており、もはや国民病であると言っても過言ではありません。そこで今回は、テレビや雑誌などさまざまなメディアで特集されることも多い腰痛と膝痛にスポットを当てて、その原因や予防方法とともに治療についてわかりやすく解説させていただきました。具体的には人間の体の構造を解剖学

を基に説明したあと、見逃してはいけないそれぞれの分野の病気について、私自身が当院で経験した症例を踏まえてお話しさせていただきました。「まわり（周囲のご家族）に迷惑をかけることのないように、いつまでも動いて歩ける体の土台作りをしたい」という聴講者の強いお気持ちが、講演する私にもひしひしと伝わってまいりました。また、さらにいくつになっても知りたい、学びたいという気持ちを持つことの大切さを再認識させていただいた貴重な時間でもありました。



ベルランド総合病院
副院長
大町 哲史

「前立腺癌の診断から治療まで」

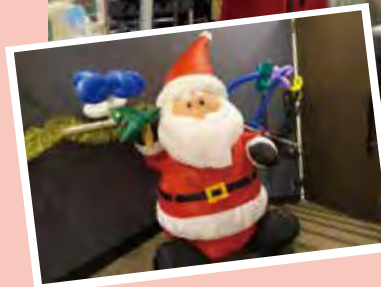
心身ともに健全で自力で通学できる60歳以上の方であるのが、いづみ健老大学の入学資格です。その年齢前後から前立腺癌の罹患率は高くなっており、学生の皆さんには、興味深く聞いていただいたと思います。実際、本邦の2016年のがん統計予想では、前立腺癌の罹患率は男性では胃癌を抜いて1位となり、死亡数も男性では第6位です。講演内容は40分でタイトルのすべてを語るのは大変でしたが、動画もまじえながら前立腺肥大症と

前立腺癌との違い、どのようにして前立腺癌と診断し治療としてはどのような方法があるのかをお話ししました。そして、他の癌とは違って、人によってはホルモン療法が数年から10年近く効く場合もあり、治療戦略は人それぞれです。自分の年齢や人生設計をふまえて、主治医の先生とよく話し合うことが大切であると結びました。



クリスマスコンサート

ベルランド総合病院



入院患者さん・ご家族の方々を対象に、クリスマスコンサートを開催しました。第12回目となるこの企画は、毎年、院内のさまざまな職種の主任がチームを作り、中心となって企画・運営を行っています。今年も、「患者さん・職員ともに、笑顔になることができる」を目標に、病気や治療に向き合っておられる患者さん・ご家族の方々に、少しでも楽しい時間をお過ごしいただけるよう準備を進めてきました。

ボランティアの方々にもご協力いただき、バルーンやクリスマスツリーで、華やかに会場設営をいたしました。コンサート当日は、患者さんを安全に会場までお越しいただけるよう、スタッフの力を集結して、移動のお手伝いをさせていただきました。たくさんのご協力のお陰で、60名を超える患者さん・ご家族の方々にご参加いただけました。

コンサートは2部構成で、1部ではゴスペルチーム“はっぴいくわいやヒューマンボイス”の力強い歌声で幕を開けました。聖者の行進やOH HAPPY DAYなどゴスペルの代表曲を迫力満点で披露していただきました。会場からも「迫力あるなー。力強い歌声！」との感想をいただきました。1部の最後には運営に携わった職員も参加し、クリスマスソングメドレーと一緒に歌わせていただきました。

続いて2部では、“はっぴいえんど音楽隊”による演奏です。ドリカムメドレーや恋のバカンス、さんぽ（となりのトトロ）といった歌謡曲を中心に、全ての年代が一緒に口ずさむことが出来る構成で、会場全体が一つになることができました。

開始から終了まで、あっという間の1時間でしたが、患者さん・ご家族の方々だけでなく、職員も笑顔にさせていただき、楽しい時間を過ごすことができました。

これからも、職員のチームワークを発揮し、患者さん・職員ともに、笑顔になることができる、ゆき届くサービスの提供を目指してまいります。

合同主任会

